



希望の森を眼前にした現在の母校



新時代の仲間集団

——10支部の結成に想う——

会長 玉津 徳太郎

同窓会会報

日本大学三島高等学校

第 2 号

昭和48年3月25日

静岡県三島市文教町2

日大 三島 高校同窓会 発行

我が同窓会も結成十年にして、いよいよ活動期に入るようになった。本会は昭和三十六年三月に結成されたものであるが、四十年十一月に現在の常任幹事制がとられ、母校周辺在住者を中心に定期行事をすることになった。ことに四十二年十二月二〇日付の「同窓会会報」創刊は一つの前進を示すものであった。

その後、年々卒業生も増加し通学区域在住者も目立つようになった。そこで有志が相寄り母校通学区域に合せて支部を作ることになり、ついに、田方・沼津・三島・富士・富士宮・静岡・清水・御殿場・熱海・小田原の十支部が四十六年度内に結成されることになった。これで本会も十支部代表を中心とする公的品格があきらかになった。

まず、年々母校を巣立つ、各年度のクラスを単位集団とし、そのクラス代表をもって同窓会の幹事を構成する。しかし、幹事は年々増加し、しかも各地に分散して活動することになるので、各地域毎に幹事の代表を選出して、これを常任幹事とする。こうした集団構成は、どこの同窓会にも見られることである。本校同窓会は、とくに常任幹事の選出に地域性を考慮し、その地域母体の結合に重点をおいたところに特徴があるということができる。この度十支部が結成されたのも、この特徴を具体化したものにはかならない。これによって、各支部代表が同窓会の常任幹事となり、定期的に会営をもち、規定の目標に向っての事

業や予算・決算を審議決定し、事務局が、決定事項を実行するといふ、同窓会本部の活動機構が確立することになった。各支部も本部との十分な連絡のもとに、支部長を中心にそれぞれの計画にもとづく活動をなし、同窓生の友情を深める絆を大きくするようつとめることになった。

さいわいにも同窓生で母校に勤務する人が二十数名になったので、本部事務局の機構も整備され、その活動に大きな期待がもたれることになった。この好機を活用して同窓会が一層充実するよう念じてやまない。

わたくしは、この支部結成にみられた同窓生の母校愛と友情、さらに献身的活動には心から敬意を表せざるにはおられない。現代の社会には、高度の技術化・情報化が優先し、何事にも合理性が物をいう状況が見られるが、人間が社会生活をはなれられない存在である以上、人情や友情を無視することはできないであらう。むしろ人間生活が洗練されるにつれて高次の友情が物をいう時代が来るものと思われる。このように考えれば人間の自然的集団としての同窓会における、年令や地位を超越した、いわゆる忘年の交りに新しい価値が生まれてくるものと確信している。

更新された本会で新しい友情を見出しそれを絆として共に新時代に雄飛されるよう念じて擲筆する。

(四七、三、三十記)

母校の沿革史

昭和三十三年四月、母校は日本大学の附属機関として内外の要請に応じるべく日本大学三島高等学校として発足した。「自由と規律を重んずる教育」を方針として自由と責任を重んじ、世界平和と人類の福祉に貢献できる立派な人間をつくることを目指している。

初代校長には経験豊富な角田陽六先生が就任、それを助けて伊奈先生をはじめとする七名の先生方と大学、事務関係の全面的協力があつた。

この初年度は一二七五名の志願者のうち、三〇四名厳選され入学が許され教育方針の実践がはじまつた。



昭和三十四年度 二年目の春を迎えてこの年新たに女子学級を付設、全校十二学級となった。

昭和三十五年

在籍生徒数一一二名二十一学級となり全学年を満した。また赴任された先生方も多く学校長以下四十三名での教育運営がなされた。

昭和三十六年度

第一回卒業式挙行、二六五名の卒業生誕生、それぞれ志望学部へ大学進学を決めた。この年の新入生四〇三名全校生徒一二三名となり、更に工業科（土木・建築・機械・電気）が付設され一二八名が入学。

昭和三十七年度

卒業生数三六八名、新入生普通科男子五五四名、女子九一名、工業科二八八名、全校生徒一八六〇名、指導陣は専任五九名、講師二四名の七八名

昭和三十八年度

卒業生四二六名、全国的高校生急増により一三四九名入学、二七四九名の全校生徒数である。

昭和三十九年度

全校生徒三四〇八名となり学校長も角田先生に代って玉津徳太郎先生（文学博士、本会会長）が二代目として就任、一一〇名の指導陣とともにその教育的手腕が期待された。

昭和四十年

卒業生八七四名、新たに普通科

開校当時の学舎

八三八名、女子一五八名、工業科三一四名が入学、全校生徒三七七九名と大きく成長した。

昭和四十一年より現在迄

創立より八年が過ぎ教育内容もより充実し、能力（身体的・知的・芸術的・社会的）開発に一層の努力がなされ、進学、就職においても大きな成果を見た。また四十四年度に自治体制の確立を目指し、普通科男子部を一科、二科と分別し前者を文芸コースとし後者を理系コースとして女子部、工業科とともに四科分立による教育の集団的分化を図った。

現在、母校では教員数一五〇名、生徒数四三六一名の規模となっている。そして、この三月十三日一三八二名が卒業し同窓生総数一二四九五名となった。

施設面については次の通りである。

昭和三十八年五月 六号館校舎完成

昭和三十八年九月 体育館兼大講堂完成

昭和三十九年六月 公認五十メートルプール完成

昭和四十一年五月 山中月見ヶ丘寮完成

昭和四十一年六月 八号館（旧食堂）完成

昭和四十四年四月 五号館校舎（工業科）完成

昭和四十五年十月 全館暖房設備完成

昭和四十七年三月 松崎厚生寮（海の家）完成

尚、施設使用に関しては大学事務庶務課宛にお申し込み下さい。

よりよき精神的活動の場として



幹事長 高田 菊平

その十支部を、我々はこれから核として、結晶が成長してゆくように発展させなければならぬ。使命があるのです。

私達同窓会々員の数も、この三月に新入会員（第十三期卒業生）を迎え、総勢一万二千余名の勢力をもつことができました。卒業後十三年間の間にこれだけの力を貯えることができたことは、母校の発展と共に喜ぶべきことだと思います。また今後の同窓会の活動に大きなプラスになるものと確信しております。

一昨年、幹事長をおおせつかり、この間、玉津会長の御指導のもとに、幹事会として、この大きな世帯となった同窓会をいかにうまく活躍させ、生きたものにするかが、与えられた問題でありました。そして、その方策として、最も実状に適し、かつ確実に達成できる方法として、かつて、私達が在校当時あった通学地域単位の支部を結成することでした。

幸にして、前幹事長の渡辺和男君（一期）の力も拝借し、又、幹事として働らいて下さる諸氏、そして母校に勤務している同窓生諸氏の強力なるバックアップのおかげで、まがりなりにも約一ヶ年の間に全支部（十支部）を結成することができました。

今年は支部の活動を中心に、さらに事業を広げてゆきたい。歩みは決して早くないが、しかし、確実に進んでゆきたいと考えています。

どうか同窓会会員諸氏の発奮を期待しております。

支部だより

十支部結成を終えて

沼津支部発足

支部長 佐久間 哲夫

昭和四十六年四月五日沼津軒において玉津学校長はじめ、多数の来賓、恩師の御出席を頂き、沼津支部がうぶ声を上げました。

同じ学園で机を並べ、同じ恩師に学んだという共通した思い出が、十年目にして支部発足に結ばれた事は非常に意義深いものがあると思います。母校も創設当時とは比べものにならない程発展し、多くの卒業生を世に送り出しています。しかし年々会員数が増大していく中で会員の勧誘を本部の同窓会だけに頼る事は大変むづかしく母校の情報も十分なものとは言えません。支部活動はこれらを補い地域同窓生の親睦をより一層深いものにして行きたいと思っています。しかしながら本年度は初めての事ゆえ、要領も得ず十分な活動もできませんでしたが、昨年度八月には納涼船を計画しましたのでその結果をお知らせし、これからの催しに一人でも多くの方の御協力をお願いして、支部発足の御報告と致します。

八月七日あらかじめチャーターした小型客船は、土用波の高いのを多小気にしながら約五十名（男三十人、女二十人）程の会員を乗せ三津、大瀬の遊覧に沼津港を出港しました。

沖に出ると予想以上に波が高く

船のゆれる度に黄色い声を発しながら、一路大瀬に向かいました。途中船長の図らいで三津の入江に停船する事に変更し、ようやく船揺れが静まった頃、真暗な海面に雲の切れ目から満月の光がさし、いつしか船内は用意されたビールが抜かれ、歌が流れ、話に興じました。月明りをながめて少しばかりセンチになる者、何年振りかの再会で話しに身が入る者と、各人それぞれでしたが、下船の時、来年も又計画して下さいと言われた時は我々役員もホッと肩の荷を下ろした思いでした。

現在、沼津支部の会員は全部で一六〇〇名を数しております。卒業生数としては富士支部と並んで大きなものであります。それゆえ、その組織運営も難しく、今後は細分化された地域と学年を単位として、より充実させていこうと思っております。一人でも多くの参加を希望します。

三島支部を思う

支部長 田中 哲雄

はじめに、十三期生の御卒業生の皆様、おめでとうございます。卒業と共に晴れて、三島支部の一員になられた事は、私達、三島支部の会員にとって大変喜ばしい事です。

さて、この同窓会の基本的な意味を考えてみたいと思います。現在では情報化時代、あるいは、多元

化時代とも呼ばれています。すなわち、文化や業務が多元化、一人の遂行する業務内容は細分化され、一部分のみ担当し、他の分野がわからなくなるといった現象がでています。そうした社会では協調、思いやり、総合力が極めて必要になってくると思われまします。とにかく、今までの記憶万能時代は、過ぎていったのです。新しい時代の要求に応じた人間に作りなおさなければ、過去の人間は役にたたなくなっていくまします。こうした事を考えて見ますと、時代に合った人づくりが、同窓会という集団を、一つの手段として、重要視されると言えるでしょう。私達は、こうした事をふまえて、将来を見つめ、二十一世紀への「かけ橋」となるべく義務づけられております。

そこで、三島支部の今後の運営に対する方針の前提として、相互連体意識のもとに、支部発展と、母校の興隆、そして、郷土の繁栄に寄与していきたいものです。そしてその方法として、会員相互の連絡を密にするための、支部名簿の編纂、整備、および、支部幹事の拡充によって支部活動の活発化を計ることとあります。

これらの事柄をふまえて三島支部幹事一同、意志統一して努力していく所存であります。

おわりに、この同窓会会報が、末永く続かれる事を祈念いたします。

富士支部結成にあたり

支部長 西村 雅幸

私達の母校日大三島高等学校が、設立されてから、十三年になろうとしている現在、同窓会の支部結成の話が盛りあがりました事は、少し遅すぎた感じがしますが、たいへん喜ばしい次第です。

さっそく同窓生各位に連絡をとる、富士支部結成のため、再三再四の準備会の後、支部結成が盛大のうちに四十六年十二月九日結成されました。

結成にあたりましては諸先生、諸先輩、本部の皆様方の力添があったからこそです。心より感謝致しております。

富士支部は旧富士市・旧吉原市・旧鷹岡町（現富士市）・庵原郡の出身者で構成されており、総勢千六百数十名に達しております。

私達支部はこれから多種多様な、行事を計画しておりますので、支部の皆様方をはじめ、他支部の皆様方の御参加をお待ちしております。また、行事に参加する事により会員相互の融和と親睦をはかる事が出来ると思ひます。富士支部をはじめ、他支部が会員の皆様方の御協力を得まして、益々発展する様切望致します。

同窓会小田原支部

支部長 川口 功一

私達の小田原支部は、正式には昭和四十六年七月二十五日、青少年会館において、一応発会式をお

こない、日本大学三島高校の小田原支部として、その他の支部の仲間に入れさせていただきまし

た。実際には校長先生他、諸先生方他支部の方々をお招きして発会式を行なった以前に、我々、小田原地区は昭和四十年頃に、小田原以東から通学していた人達を集めて、日大三島高の同窓会のようなものを作ろうと、何度か地区としての集いを行なってきました。

私は、三期生ですが、その頃には生徒の数も少なく、私達の先輩は小田原地区では三人位、三期生が三名、四期生が三名、五期生の頃から順に多くなってきました。

実際に、一声で集まる人員は、四期までが一番多いようです。これには小田原地区の人員が少なかつた事が、我々が結束する一番の理由であったかもしれません。学校も歴史が古くなると、それにともなつて、生徒の数も順に多くなつてゆき、誰が何という先輩で、誰が後輩であるかもわからなくなつてしまふと思ひます。

在学中は、余り気にかけない学校の事も、卒業して年月が経てゆくにしたがい、昔がなつかしく思われてくる事があります。

我々、日大三島高の卒業生として、実社会に出ても横のつながりを持ってゆきたいと思ひます。母校には私達の恩師もいらつしやいますし、私の同期、後輩も教壇に立っていますので、小田原支部の活動を活発にしようと思われる方どうぞ、積極的に参加して欲しいと思ひます。

田方支部発足

田方支部長 植田 正年

同窓生の皆様方には、おのの各方面で御活躍の事と拝察致します。

皆様御承知の通り、母校の要望もありまして、卒業生を一堂に会し相互の親睦を計るという目的のもとに、各支部の同窓会を結成することになり、田方に於きまして、同窓生の熱意のもと盛大に、昨年三月下旬発会致しました。

総会に於きましては、久さびさに会った恩師、同窓生が、楽しいひとときを過ぎ昔の思い出話に花を咲き又の再会を期して別れました以後、支部活動に於きまして

卒業記念像二基

母校の環境がすばらしいことは、卒業生在校生ともに認めることである。

公害、公害……とさわがれている今、緑のある処、貴重のように思われる。

目を静かに閉じると母校の校庭が目に見え、前庭一面の芝、希望の森、思索の森と、大都会で生活した者にとっては一層懐しく思われる風景である。

こんなすばらしい緑の中に卒業生の残した二つの像がある。



は、諸先生、先輩、役員の方々の御尽力によりまして、同窓生多数の参加を得、事業活動を行なっております。こうした会の中では、大勢の方々から大変有意義な集まりであるという御声も聞かれ、我一同意を強く致しました。

本年度は二年目を迎え、本格的な事業活動を展開してまいりました。どうか、卒業生の皆様にはこの趣旨をよく理解していただき、田方支部発展の為、これから入会する後輩の為に充分な熱意ある御協力をお願い致します。

富士宮・芝川支部発足

富士宮 芝川支部長

富士宮・芝川支部は、同窓会規



「希望の像」・「思索の像」がそれである。

希望の像は高等学校の通用門にあり、力強くその雄姿を示し希望に胸ふくらませた青年の像である。これは昭和四十二・四十三年度の卒業生よりの記念品である。

思索の像は希望の森の北側、白い校舎の前に柔和な女性の姿をもつて温かな人間味と思索を表現している、これは昭和四十四年、四十五年度の卒業生による寄贈である。

この両像は日展会員の、堤達夫氏によるものである。

約の主旨に従い、四番目の支部として昭和四十六年十一月十一日に誕生致しましたが、今迄の経過や今後の運営・拘負について、簡単にご紹介致します。

昭和四十六年十月十九日、一期から七期迄の同窓生有志、十二名からなる準備委員会を発足し、以後週一回準備委員会を開き、支部同窓生五七八名の住所録や、支部規約の作成それに総会の日時決定・進行等の作成にとりかかった。

この間、三島より同窓会幹事長の高田氏らが応援に来宮された。

同十一月に入ると、早々に案内状を作成し、同時にローカル新聞へ、同窓会支部結成・総会の開催を通知した。

同十一月十一日午後七時より、支部結成・総会を富士宮駅前「ニューカド浜」にて開く。

同窓生約五十名に、来賓として、母校より、北岡・田上・佐々木先生を始め、同窓生で教勉をとられている諸先生方や、同窓生より高田幹事長・植田田方支部長、更に富士宮地区桜門会の諸先輩を迎え、盛大裡に無事終了した。

尚、当日支部役員承認が行なわれ支部長に一期の小林脩弼氏が、又、副支部長に一期の渡辺衛氏、四期の河野朋克氏、そして芝川地区から五期の深沢宗昭氏が任命された。

同十一月二十七日、静岡新聞社主催の「愛の都市訪問」に協力。

同十二月十一日、忘年会。

以後、三ヶ月に一度幹事会を開き時には、お酒などを入れ、親睦を深めています。

以上が現在迄の主な経過であります。支部発足以来、日常の平凡な生活の中に、同窓という素朴な心の交流が芽生え、それが確かなものに成長しつつあります。私達の支部同窓生も、皆それぞれ色々な職業に従事していますが、立派な社会人として同一線上に立ち、先輩後輩なく打ち解けた、非常に和気合々とした楽しい支部であります。これからも、同窓という、いわば縦のつながりを軸としながら、網の目の様に交わる支部にしたいと思っています。

おわりに、今後の主な行事予定を二・三ご報告致します。

三月中旬、新入会員観迎会
四月中旬、新入生観迎懇談会
六月中旬、ボーリング大会
八月中旬、キャンプ

静岡支部だより

支部長 長嶋 興嗣

四十六年十二月に支部が結成され、はや一年を経過する、ともかくはやいものである。最初の支部だよりに際して、支部結成ができるまでの過程を簡単にふれてみたいと思う。支部ができる二ヶ月前に一・二・三・五期の同窓生が数人集まり、協力を依頼したのである。そうすると、はやいものである、同窓生という共通した何かがあるのであらう、すぐ準備会ができ、一ヶ月後に支部結成のはこびとなる。

やはりいいものである。同窓生というものは……支部結成の日になつかしい顔ぶれが多数集まり、十年前の高校生活にもどったような、純粋なあの時の気持がなつかしく思い出され、楽しいひとときを過ごし静岡支部の発展を約束して、別れた。皆んな立派な社会人となったなあ……と。

支部結成の第一回の行事としての、三月末に新入生歓迎会としてボーリング大会を計画した。これからは大いにこれを機会として会員一同の親睦をはかるとともに静岡支部の良さを十分に発揮し、支部会員の協力をえて、益々支部が発展することを祈り、今後はよりよい計画案をたて有意義なものにしてゆきたいと、役員一同頑張つてゆくつもりである。

その後にあつては、役員会も数回行なわれ、次の行事を考え、組織拡充に努力しております。そして現在名簿の作成にとりくんでおります。間もなく、皆様方のお手元に届くかと思っておりますのでそれも利用し、一人でも多くの方の参加を望みます。

御殿場支部報告

御殿場支部は従来、御殿場・裾野・小山が一語になり三地区が御殿場となり結成されることになった。そして十二月、一期生の真田氏をはじめとして各期の代表者があつまり、幹事会を開き総会の打合せを行ないました。

雪の降る二月十三日、御殿場館別館において日大三島高校同窓会の十支部の仲間入りを致しました。

た。雪の降る中で行なわれた支部総会では、学校より北岡先生を始め多数の先生方、そして幹事長の高田氏、他支部から多数の応援をいただき、開催されました。

他支部同様多少集まりが悪いとはいえず、五十数名で行なわれ、昔なつかしい話、先生方との思い出話、山線地区とよばれたところの話、小山の河原で先生をかこみ地区会の話等、歌に昔話に二時間位の中、皆楽しくすごしていたようです。

総会幹事が集まり、今後の支部のあり方、運営方針等、話し合いをもち、今後、ボーリング大会、釣大会などが予定されており、準備が着々と進められております。十支部も結成され、他支部にとらず充実した会にしようと、幹事一同はりきっております。今後ともよろしくお願い致します。

熱海支部のあゆみ

熱海支部支部長

高井 常光

春のおとずれが卒業のシーズン知らせ、我々、会員も心機一転し、決意を新たにすると同時に、新会員入会に対して、温かく迎かえ祝福を送りたいと思っております。

早いもので熱海支部が結成され、一年が過ぎようとしておりますが、一年間の出来事の一つが生かされ、今さらながら同窓意識の強さと、重要さを痛感しています。振り返ると、二・三名で話し合い、準備会を重ねるたびに、六

名、十二名と増え続け、最終段階では一期から十期までの計二十一名の賛成を得て、結成の運びとなったしいです。その間には、同窓会の意義について数時間議論し、先がどうなるやらと心配と不安が交差しましたが、結果から見ると無意味に思えた話し合いも、やがては心の触れ合いをプロセス途上で生んだものと確信いたしました。その後は、順調無風のうちに事が運び、三月八日、熱海中央ホテルで、幹事長、各支部長、田上福島、松本、河野各先生を招待して、会員五十余名の出席のもと盛会のうちに終了し、引き続き新入会員歓迎を兼ね、熱海後楽園でボーリング大会を開催しました。今また、新入会員を迎えるにあたり、歓迎行事の企画をしております。

わが支部の特徴は、学生を除いては、土地柄もあるのでしょうか、自営の者が比較的多く、互いに、商売上のつながりもあり、先輩、後輩の関係より、同級生の立場で和気あいあいとした雰囲気を感じられます。これから入会の方、固苦しさを抜きにして気軽に行事に参加して欲しいものです。同窓会と言っても土地に住む者の集まりですので今後も同窓意識を高め、母校を愛し、やがては地域社会をささえ、会員のすべてが、町を、母校を盛りあげようとする気持を大事に育てていきたいものです。

最後に、流動するメトロポリスの中心地にあつて、仕事や勉学の「志」を個々に秘め、一方では同

窓の「絆」を求め、より広い人間を形成する努力と、理解し合う精神を一步でも着実に進める事のできる支部であるよう幹事一同が決意している事を加えておきます。

清水支部

斎藤康行(一期)

昭和四十六年度に同窓会本部のもとに支部づくりが進められたことを非常に嬉んでいた清水地区も多小の遅れをとったものの、昭和四十七年三月に発足の運びとなり、第九番目の支部として他支部に仲間入りをした。

母校よりやや離れた地、清水での支部発足は同窓生からすると待ちに待ったものといえるようである。

化学時代は一時間弱の電車通学は当然の如く、仲間づくりの意識を盛り上げ同胞との語らいもはずんだものである。それが今にまで、われわれの意識の底に流れ支部結成の源流となっている。

昭和四十七年三月四日土曜日、午後六時半より、駅前銀座の割烹「久松」で第一期卒業生を中心として十一名の発起人の手で念願の支部結成を果し、今後の発展を約束した。

当日は、同窓会幹事長高田菊平氏も出席され六十余名の会員が会の意義を理解し、参加し盛大にして二時間程の時を過ごした。

事業計画、支部規約等の承認とともに新しい役員が選出され支部としての条件を整えた。役員面々は気力新たに、今後が期待できるといふようであった。

母校のクラブ実績

スポーツ部門(団体)

クラブ名	大会名	種目	成績	年月
相撲	全国高校選抜法大会	①	44.8	
	東海高校総体大会	①	46.6	
	インターハイ県予選	①	47.6	
水泳	東海高校総体大会	①	46.7	
	団体予選東海大会	①	47.8	
スケート	県スポーツ祭	2千MR	①	45.1
		①	46.1	
		①	47.1	
バスケット	インターハイ東海	②	44.6	
	国民体育大会(全国)	①	44.10	
	東海高校総体大会	①	45.6	
柔道	東海高校総体大会	②	45.6	
	県スポーツ祭	①	46.5	
陸上競技	インターハイ県予選	①	45.6	
短球	インターハイ県予選	②	45.6	

学術・文化部門

クラブ名	大会名	種別	成績	年月
生物	県学生科学賞	総合	46.10	
囲碁将棋	全国高校選抜大会	準優勝	46.8	
教養	全国高校選抜大会	②	47.6	

スポーツ部門(個人)

クラブ名	大会名	種目	成績	年月
体操	県高校総体大会	鉄棒 跳馬 床	①	46.6
陸上競技	インターハイ東海予選	2千H	②	44.6
	東海高校総体大会	{110H 200H}	①	45.6
	国体県予選		①	45.8
	インターハイ県予選	ハンマー	①	45.6
	国体県予選		①	45.8
	国民体育大会(全国)		②	46.10
	東海高校総体大会	4百H	①	46.6
	県スポーツ祭	走幅	①	47.5
相撲	全国選抜高校大会		①	44.8
	県高校総体大会		①	46.6
	県スポーツ祭		①	46.5
スケート	インターハイ県予選	500 1500 3000 5000	①	46.1
	国体県予選	500 1500 3000	①	45.1
	県スポーツ祭	3000 5000	①	47.1
	県スポーツ祭国体県予選(教)	500	①	45.1
			①	46.1
			①	47.1
	県スポーツ祭	400M	①	46.5
水泳	浜名湾高校大会	8百自	①	47.6
短球	東海高校総体大会		②	45.6

表彰状の数々



バトンの行進



室伏重信氏（四期生）

オリンピック選手、
同窓に在り

ミュンヘン・オリンピック・ハンマー投げ第八位・日本記録保持者、室伏重信選手は、我が日本大学三島高等学校の同窓生である。そんな彼を我々校友はミュンヘンでの活躍をどんなにか頼もしく、また、楽しみに見ていたことでしょう。ミュンヘンオリンピックの放送が始まるやいなや、テレビの前にしがみついて、「私の同窓の室伏選手がいま、ハンマーを投げる、さあ、投げた、のびた!!」のびた!!七十メートル八十八センチ……

同窓生のプロフィール

内藤正昭氏（四期生）

第十三次南極観測隊
に参加

第四期生である内藤正昭氏は一昨年十一月第十三次日本南極地域観測隊員（夏隊）に選抜され、現地昭和基地に於いて基地施設建設指揮と基地建物の調査研究（変形・建物国有移動係数・建築材料の現状・特殊建物の熱伝導係数）を行ない昨年春、帰還された。

氏は昭和三十六年四月日大三島高校に入学同三十九年母校を卒業、同年日大理工学部・建築科入学・卒業後現在日本大学大学院理工学研究科博士課程建設工学科に

……など息を詰めて見ていたに違いありません。この時の彼は、初出場でありながら、オリンピック独特の重圧をはね返し、しかも春先の故障で受けた、心理的不安を見事に克服しての八位であった。次のモントリオール大会には、きつと有力なメダル候補になるだらう。それにもまして、九月二十九日にはルー・マニヤのヤリ投げ選手である、セラフィナ・モリッさんと沼津市浅間神社で晴れの結婚式を挙げた。我々同窓生も心から彼に祝福を送りました。彼のように素晴らしい人が育った母校を同窓生全員で大切に育てていきましょう。

在学している。

在学中に極地観察への参加という栄えをもたれたわけだが、昨年十一月母校日大三島高校全校集會に於いて、前述の南極観測隊に参加された時の体験を、オーロラの観

察、極地での生活、隊員の生活心理作用、観測船上でのエピソードなどを混じえ、三十分程ではあったが、興味深く話された。

卒業後の同窓生は各地各所で、それぞれの活躍を成している訳だが、こうして母校を訪づれ、後輩諸氏に将来への大きな夢と可能性と実行力をもつことの重大さを教えるのも、同じ同窓の身であればこそより意義深いものであらう。

新入会員挨拶

第十三期生 藤沼和明

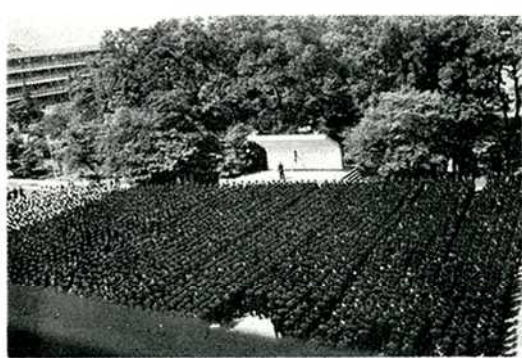
桜の蕾も開き始め、うら暖かい季節になりました。我々十三期生も、縁につつまれた日大三島高校を無事卒業し、同窓会の仲間入りをしました。今の我々は、母のふところからぬけだした赤ん坊のようなもので、何一つ満足にできない未熟者です。その我々が、各自の目標に向かって道を歩んでゆくわけですから、なんとも心細い話です。ですから、諸先輩方、我々をよろしく御指導してくださいませう。さかほんとうか知りませんが、日大三島高校の出身者は、皆りっぱに出世していると先生に聞かされました。我々も是非そうになりたいものです。私が高校時代をふりかえってみると、どういふわけか、先生に怒られ、どなられたことしか記憶に残っていません。しかし、「憎まれ子世にはばかる」といいます。これからは、同窓会員であることを誇りに思い、なおいつそうの努力を積み重ねて輝やかしい栄冠を勝ち取る覚悟でいます。これはたやすいことではないでしょうが、決して不可能ではないはずで、努力することこそが人生の意義がある。」とグーテもいっています。

これから先、同窓会を開く機会も幾度あると思いますが、すでに実社会で活躍されている先輩方の体験談などを聞かせてもらい、将来の参考にしたいものです。中には三十代の大先輩もいるわけ

すが、「自由と規律」をモットーとする日大三島高校の同窓生にはかわりありません。同期生はもろんのこと、先輩たちともよく協力しあい、名譽ある母校の名に恥じないよう一生懸命頑張っていきたいと思っています。「遠い親戚より近くの他人」というように、困った時に力になってくれるのは何といっても親しい我々同志ですから、今後とも助けあい、仲良くやっていきましょう。そして、名目だけの同窓会ではなく、「名よりも実」のある充実した同窓会にしていくことを望みます。

母校転出教員一覧

私達にとって青春の意気多感の頃に教えを受けた先生方とは、忘れぬ人として、いつまでも脳裡に残り、時として思い出の主人公となるものである。母校創立以来数多くの先生方が新たに赴任され現在では専任教員百二十名を数え



母校の全校集會風景

るほどにまで至っている。反面転出される方も多くその消息は気になるものである。次に示すものは年別の転出された先生方である。詳細は同窓会事務局宛に問い合せ下さい。敬称略、()内は教科

- 昭和三十三年 大石喜久男(数)
- 山下七郎(社) 藤原修(数)
- 昭和三十八年 高杉洋二郎(社)
- 猪俣好光(社) 死亡細川幸政(数) 浅賀榮三(工業)
- 昭和三十九年 桑山泰助(英)
- 久保田富(社) 木村英二(国)
- 笹山栄治(理) 死亡
- 昭和四十年 阿部幸頼(理)
- 福永万寿男(英) 戸田保明(理)
- 古谷勉(工業) 深松哲三(工業)
- 昭和四十一年 谷口富男(英)
- 西一祥(国) 堀込武弘(国)
- 田室区彦(英) 内藤昭(社)
- 高橋敏彦(工業) 山岸明郎(体)
- 昭和四十二年 岩瀬善則(理)
- 塚尾正通(英) 竹森純子(国)
- 佐藤憲治(英)
- 昭和四十三年 永塚功(国)
- 植村尚代(英) 東海林里知子(体)
- 昭和四十四年 田中誠一(体)
- 石川のり子(英)
- 昭和四十五年 佐々間寅之助(社) 角田善後(数) 原しのぶ(体) 千葉章夫(英) 望月三津子(数) 土本敏光(数)
- 昭和四十六年 小笠原光子(体)
- 林俊之(数) 佐藤三武郎(英)
- 飯田八重子(国)
- 昭和四十七年 伊奈恒一(国)
- 金谷菊松(英) 岡柳喬(英)
- 安原充健(理) 佐々木哲郎(英)
- 山田隆夫(体) 及川直粥(体)
- 渡辺勝重(体)

同窓会雑感

富士宮支部歳末助け合いに協力
富士宮支部（支部長・小林修氏）は年の暮、静岡新聞・S・B・Sテレビ主催の「愛の都市訪問」へ昭和四十六年度の支部総会の残金を寄贈し慈善事業の一端を実践したものであり、他支部に先だったものでありその影響も大である、また今後、同窓会組織が拡充することにつけこうした事業が増えることを期待し、富士宮支部に続くものと、確信しております。

富士支部、定期演奏会に花束！！
昨年の夏、母校吹奏楽部が富士駅前富士文化センターで第六回目の定期演奏会を行なった。その際に富士支部は地元での演奏会とあって積極的に協力をし、演奏会中の贈呈式の際、見事な花束を送り激励した。花束はキャブテンの手に渡り部長の先生、部員一同

思い出

今年で本校も十五周年を迎えることになった。思い出でも綴って同窓生とともに本校の歴史をたどってみよう。

私が本学園の図書館に勤めだしたのが昭和三十年の正月の頃であった。そのころ鉄筋コンクリートの建物は図書館の書庫と事務室と玄関だけであった。その外はすべて三島野戦重砲連隊の建物だけであつた。ただ今の野外ステージの

感激し、次の演奏も立派なものであつた。

吹奏楽部の話によると、定期演奏会は毎年夏（七月上旬）の行事として行なうとのこと、今まで沼津・三島に会場が集中していたので分散させる方向で今後も続けたとしており、同窓会の十支部設立を喜び、その地での定演の際は協力を、お願いしたいといっている。

できれば同窓会・支部を巡回しても良いとも考えているようである。

後輩は頑張っている！！

全国的に進学率は高まっている。特に母校は大学の附属高校であるところから、かつての我々と同様に在校生は大学進学を目指して勉学に励んでいる。最近が目立って進学者も多く進学率も上昇の一途をたどっている。以下昭和四十六年度の進路状況を参考までにあげてみた。

学部	普通科	工業科
文学部（文）	54 (52)	3 (1)
法学部	68 (64)	0 (0)
経済学部	128 (125)	4 (2)
商学部	42 (30)	0 (0)
芸術学部	25 (25)	1 (1)
文学部（理）	18 (12)	0 (0)
理工学部	51 (36)	1 (1)
工学部	42 (41)	12 (11)
生産工学部	106 (101)	10 (7)
歯学部	3 (1)	0
農獣医学部	102 (100)	17 (16)
短大文学部	32 (31)	0
短大英文部	33 (33)	0
短大家政科	55 (55)	0
短大工科	17 (13)	111 (99)
短大商経科	86 (75)	27 (17)
短大他	23	4
合計	785	190

() 内は無試験入学者

は今日も変わらず、私達を眺めてくれた。

教頭 橘 和彦
ところにも兵舎が二列に並んでいたらしくけれど、それはその頃にはもうなくなっていて、芝生が密生していた。そして学園の北端の建物には今本学園の次長の安藤先生、学校長の玉津先生をはじめ、前経理長の高桑先生、事務長の吉原先生、教務課長の武藤先生、その他の先生や用務員の方々が住んでおられた。今日は取壊されて何もない。そんな環境の中でも富士

昭和四十七年度 行事事業

(事務局)

一、総会

昭和三十七年十一月に第一回総会が開かれ以後規約により毎年の行事として定期的に開催されている昭和四十六年度総会は会計年度に合せて三月とし支部結成を中心とした議事により八十余名の出席者で行なわれた。

昭和四十七年度総会は三月二五日と決定し、事業報告、会計報告等と支部育成を中心として話し合いをすべく準備を整えてきた。また、今後の総会運営については支部出席者を中心として学年代表者を併せて全体の意思運営に反映せんとして行くように考えるものである。

二、幹事会

昭和四十六年度規約改正により幹事会も従来の学年を基に選出された幹事と四十六年度よりの支部結成により支部の代表者（支部長）である幹事（常任幹事）とにより構成されることになった。この四十七年度は四回の幹事会が開かれ、常任幹事諸氏の積極的参加があり毎回長時間に及ぶ討議がなされ、実のある会であった。

内容については新規約にもとづき組織の確認、会費の値上げ、会報発行、新入会員入会式、本年度総会等である。

三、事務局

総会、幹事会で立案承認された行事を実施する点で任が重い。総会、幹事会に関する広報活動と名簿作成が現在の中心の仕事として

いる。

事務局員は幹事会より委嘱された者とし、現在卒業生であり母校に奉職する二十余名により構成されている。

四、支部結成完成

昭和四十二年度より会長、幹事長の懸案であった支部結成が昭和四十五年度総会にて決議され母校の地区連絡組織に合せて四十七年三月をもって完成した。以下その組織の順である。() 内は設立年月。

田方支部（四六・三）沼津支部（四六・四）三島支部（四六・六）小田原支部（四六・七）富士宮支部（四六・一一）富士支部（四六・一二）静岡支部（四六・一二）御殿場支部（四七・二）熱海支部（四七・三）清水支部（四七・三）尚、近隣町村はいづれかの支部に所属、各支部ともに現在、名簿作成が進んでいる様子である。

五、新入会員入会式

毎年、春ともなると新しい同僚が仲間入りする。今年度も第十三期生一三八六名が同窓会員として入った。

この一三八六名に対する歓迎入会式が去る二月十六日に母校8号館大ホールで行なわれた。

この式には会長をはじめとして高田幹事長、各支部長等十名の幹事役員が揃い、会長より高い次元での同窓会の意義、必要性等が説かれ、続いて幹事長より仲間として力を合わせお互いの成長と母校発展を約した。また、これに続いて各支部長より各支部報告がなされ、支部長の性格、土地柄等が現れ楽しい交換がなされた。

日本大学三島高等学校同窓会規約

第一章 総則

- 第一条 本会は日本大学三島高等学校同窓会と称する。
- 第二条 本会の事務所は、これを日本大学三島高等学校内に置く。
- 第三条 本会会員は、日本大学三島高等学校の卒業生をもって正会員とし、現教職員および元教職員をもって特別会員とする。
- 第四条 本会は、母校建学の精神にのっとり会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展興隆に寄与することを目的とする。
- 第五条 本会は、前条目的達成のために左の事業を行なう。

第二章 機関

- 第六条 本会は、事業遂行のため左記の機関を置く。
- 一、総会 二、幹事会 三、支部会 四、事務局 五、編集委員会

第一節 総会

- 第七条 総会は本会運営の最高決議機関である、総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。
- 但し、必要により各支部を代表する支部長会をもって、総会の決議にかえることができる。
- 第八条 総会は本会運営についての立案実行の一切の事務を幹事会に委嘱する。
- 第九条 総会は四月一日より翌年三月三十一日までの年度一回、会長がこれを召集し、幹事会、会計監査の所管事項の報告をうける。但し、緊急を要する事項に関し、会長が認めた時、又は会員多数の要求があった場合、会長は臨時に召集しななければならない。

第二節 幹事会

- 第十条 幹事会の運営機関として、左記の事項を立案し総会の承認を経たのちこれを実行する。
- 一、予算・決算に関する事。
- 二、事業計画に関する事。
- 三、会則の改廃に関する事。
- 四、その他、第五条によって必要と認めた事項。
- 第十一条 幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のもとに開催する。また、幹事長は幹事の三分の一以上の要求があった場合は、臨時に幹事会を召集しななければならない。
- 第十二条 幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。
- 第十三条 幹事会に常任幹事会を設ける、常任幹事会は幹事会の役職員ならびに常任幹事によって構成され、必要により幹事会にかえることができる。

第十四条

幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関を設けることができる。

第三節 支部会

- 第十五条 本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。
- 第十六条 支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるものとする。

第四節 事務局

- 第十七条 事務局は幹事会のもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める。
- 第十八条 事務局は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

第五節 編集委員会

- 第十九条 編集委員会は幹事会に所属し、原則として年度一回の会報発行、その他、本運営上、必要なる広報の任にあたる。
- 第二十条 編集委員会は幹事会より委嘱された者をもって構成する。

第三章 役員

- 第二十一条 本会は左記の役員を置く。
- 会長一名 幹事長一名 副幹事長二名 幹事、常任幹事、会計監査二名

- 第二十二条 会長には学校長を推戴する。会長は本会を統理する。
- 第二十三条 幹事長は幹事会を代表し、本会運営の責任を負う。
- 第二十四条 副幹事長は幹事長を補佐する。
- 第二十五条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し、併せて会務を分担する。
- 第二十六条 常任幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。
- 第二十七条 会計監査は総会において選出され、経理を監督し、総会にその旨を報告し承認をうける。
- 第二十八条 各役員は総会の承認を経てその任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

第四章 会計

- 第二十九条 本会の経費は会費ならびに寄附をもってこれに当てる。
- 第三十条 正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。
- 第三十一条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第五章 表彰、その他

- 第三十二条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認をえ、これを表彰することができる。
- 第三十三条 会員として名譽を毀損する行為があったときは、会長が幹事会の議により総会の承認をえ、これを除名することができる。
- 第三十四条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に應える。

第六章 附則

- 第三十五条 規約の改廃については幹事会の議により、総会の承認をえ行なう。
- 第三十六条 制度施行 昭和三十六年三月十一日 改正施行 昭和四十七年四月一日

募集 校歌

本年四月をもって母校は十五年の春を迎える。十五年といえは決して長い才月とはいえないまでも、一応の基礎はでき、今後の躍進を期待できる段階であろう。

創立以来、今日にいたるまで私達は「日に日に新たに文化の華の……」と日本大学校歌を唄い親しんできた。

丁度、本年は十五周年にあたり、母校でもさやかな程度に十五周年の記念行事をしたいとの意向であり、学内に委員会を設けたようである。同窓会としても是非この行事に参加したいと考えている。又、この機会に日本大学三島高校の校歌を創りたいとの発表があり、公募の方法で各方面に呼びかけている。

同窓生のなかで音楽的「才」にたけた者による作詩、作曲を期待したいものである。校歌作成にあたっては母校の教育方針を充分表現できるようなものであり、学風、環境等の要素をとり入れて下さい。

尚、作品は同窓会事務局宛にお送り下さい。

